

八月、九月と一般会員向けのふすまカラクリ研修や、ワーキンググループでの舞台視察などの活動を行いましたので、今回はその様子をご紹介いたします。

## 農村舞台見学会 （上那賀町拝宮） はいぎょう

**平成15年8月24日(日)**  
**9:00~18:30**

9:00	JR徳島駅集合(ポツポ街入り口付近)
10:25~11:00	鷲敷町百合神社の農村舞台見学
12:00~14:30	拝宮農村舞台(白人神社)で昼食 三番叟上演・ ワークショップ(青年座・ハリケーンジャック)
14:30~15:15	拝宮谷の農村舞台(轟神社)見学
15:30~16:00	拝宮和紙工房見学
18:30	JR徳島駅到着・解散

### 参加者

阿波農村舞台の会 二十四名  
上那賀町拝宮 井本自治会長他二十二名  
上那賀町教育委員会 横山次長

農村舞台の会として、はじめての活動であり、やや緊張して徳島駅前に集合。岩朝会員の友人である山丸舞台設営の山丸

さんのご厚意によりお借りしたマイクروبスで上那賀町へと向かう。日曜日であり渋滞もなく予定よりも早く道の駅わじきに到着。少し長めのトイレ休憩をとり、鷲敷町の百合神社の舞台を見学していくこととした。国道一九五号線からほんの少し入ったところで、駐車場として利用できそうな広い空き地もあり、イベントを行うのにはこの上ない立地である。周辺の雰囲気も素晴らしい。舞台は薙板張り、本瓦葺きの古さと風格を備えている。かなり傷みは出ているが舞台として使用できないほどではない。

拝宮へは予定どおり十二時に到着。一九五号線から二キロほど入ったところにある集落は、視界も開け棚田の石垣が美しいのどかな山村の風景である。白人神社はその集落のはずれにある。拝宮谷川の清流と樹齢数百年の樹々、橋を渡り神社へと至るアプローチは他にない荘厳な雰囲気がある。鳥居をくぐり境内へ入ると、舞台には、幕がかけられ普段とはガラリと違う姿であった。朝早くから地元の方十数名が準備に出てきてくれたそうである。徳島市や小松島市へ出ている拝宮出身の方も子供たちを連れて手伝いに帰ってくれていた。

三番叟上演・ワークショップ  
昼食後、ハリケーンジャックの太鼓(アフリカの民俗楽器)と青年座のコーポレーションにより三番叟を上演。準備に出てくれた人の他にも地元の人がたくさん

集まって来てくれ、お盆でもお正月でもお祭りでもない日に、約五〇名もの人が白人神社に集まった。拝宮には、昭和二十二年頃まで拝宮座という人形座があったが、この舞台で人形が動いたのは半世紀ぶりのことである。この日は、当時拝宮座で人形をまわっていた方が二人来てくれており、本当に懐かしい、太鼓と人形が意外によく合うね、との感想をいただいた。公演後、ジャンベ太鼓をはじめとするアフリカの民俗楽器や青年座の人形にさわってもらい、特に子供達喜んでくれた。元拝宮座の方たちが懐かしそうに人形を動かしていたのも印象的であった。

拝宮の井本自治会長に、舞台を復活できるように計画してみたい」と言っていた。き、会の活動に大きな手応えを感じた。

### 轟神社の農村舞台

白人神社から歩いて約二十分の轟神社にも素晴らしい舞台がある。暑い盛りではあったが、のどかな風景を楽しみながら三々五々歩いて行った。小さな谷筋に沿って細い山道を登って行くと、ひんやりとした山陰にひっそりと佇む舞台がある。約十年前に、拝宮和紙工房の中村功氏の主催で人形浄瑠璃の公演が行われ、たくさんの方が訪れたところである。

### 拝宮和紙工房

中村功氏が約二百年の伝統を有する拝宮和紙を漉いている。実用品としての和紙だけでなく、作品づくりにも力を入れており、全国各地で展覧会も開催しているとのことである。かつて拝宮の和紙漉きは、農閑期の現金収入につながる恵まれた家内工業であったが、昭和二十四年頃を頂点として衰退した。



## 見学会の感想

高倉設計事務所 高倉哲郎

前々より、徳島で活躍している建築家の仲間が永年県内の街並みや建物の調査を続け、その成果に感心していました。特に農村舞台には、建築・芸能共に興味がありませんでしたが、香川からではなかなか見る機会がなく、今回の企画は本当にありがたいと思っています。第一回目の百合、拝宮白人神社の舞台には、彫刻や軒に組物が見られ、その豪華さに驚きました。山間のわずかな戸数の集落にこれ程までの物が建てられたその力は、いったい何だったのでしょうか。拝宮の白人・轟の両舞台には、左右の大臣柱の後ろに一つずつ二個の囲炉裏があります。集会等にも使われたようで、土地の人の話では、集まって来た顔ぶれを見て、気の合わな